



さいたま市介護支援専門員協会
ロゴマーク

STARTS NEW

平成22年度 第3回全体研修

医療との連携 「退院時の連携について」がん拠点病院について

開催日時 平成22年10月23日(土) 13時30分～17時00分

開催場所 さいたま市産業文化センター301・302会議室

10月23日(土)さいたま市産業文化センターにて「平成22年度第3回全体研修」が開催された。今回の全体研修は、午前と午後に分かれ行われた。

午前は、まいまい在宅企画(株)代表取締役 小澤洋子氏による「退院時の連携」についての講義が行われた。

なぜ、ケアマネジャーと医療の連携が必要なのか、医療的立場では、社会資源や医療資源の有効活用により病院の機能の分化、それに伴い入院数

の制限があり、ベッドの効率的な活用が期待されているので、長期化の入院ができない状況となっている。そのため、在宅に帰ることとなるので医療側とケアマネジャー側との話し合い、在宅に向けての取り組みが必要となってくる。

居宅介護支援事業所に関しても介護サービス計画の作成、適正なサービス調整のために連携が必要であり、サービス開始時も医師の意見書、診断書が必要であり、利用者の疾

患等だけでなく介護力によっても療養内容が変わってくるので連携が必要となってくる。医療機関の機能分化には、特定機能病院・一般病院・長期療養病棟・障害者施設等入院病棟・介護療養病棟にわかれ、それぞれの役割をもち運営している。

病院、ケアマネジャー共に必要とはしているがタイミングが一致していないことがあるので、外来の同行や計画書を利用者に持参して見ていただく、郵送などにより医師に対しても



Vol,21

2011年冬号



と意識付けを行なっていないといけない。

また、病院に対しても機能が違うのでその内容なども理解することが大切でケアマネジャーと病院との研修会や情報交換会の開催により情報の共有ができるのではないかな。

介護力をきちんとアセスメントし緊急時に備え病院側との情報交換などしておくことよい。今後、重症化、在宅での看取りが増えてくるので往診医を含め医療との連携をしっかりとっていくことが在宅を支えるために必要であると感じた。

いて「さいたま市立病院 副看護部長 畑中伸子氏よりご講義があり、がん拠点病院の病院とのことで、さいたま市立病院の取り組み、外来患者、入院患者についてお話しがあった。

自治体の病院として経営の健全化、病院連携（連携病棟の設置ほか）等に努めているとのことで、現在自治体病院は倒産しているところも少なくなく、健全な運営が求められている。

病院連携として月1回、浦和医師会ほか病院関係者において話し合いが行われている。入口機能（患者を選ばない）、出口機能（往診医の紹介など）、24時間の会（かかりつけ医が不在の時に他の医師が代行）を行っているとのことである。

必要時には、病院内に在宅医が受け持つベットの準備しているので、介護者、家族にとって心強く、安心して生活できると感じた。

大きな病院になると、1日に1000人以上の外来患者が来るので待ち時間が長くなってしまふ。かかりつけを

近くに持つことにより、負担の軽減ができる。そのためにも連携が大切である。

現在、第3次対がん10ヶ年総合戦略も後半を迎え、研究、予防及び医療を総合的に推進することにより、がんの患者数、死亡率の激減を目指しているとのこと。がんの種類、病期、患者の状態によりうまく組み合わせていくことが大切で、患者、家族への支援体制をしっかりと作り、緩和医療、緩和ケアをチームで行うことで、ご本人の希望の場所で生活することができると、実際に緩和ケアを行っているところは少なく、在宅よりも病院が安心という選択をされる方が多くなり、それが社会的入院の増悪となっているのが現状である。

自分が、がんになった時、どこで過ごしたいのか、在宅の利用者の方はどのように考えているのかを今一度、しっかりと考えること。

午前、午後の研修はどちらも考えさせられる内容で、今一度、自分の考えを見直す良いきっかけになったように感じた。

岩槻区ケアマネサロン

テーマ「紙おむつの効率的な使い方」

開催日時 平成22年8月3日（火）18時30分～19時45分
開催場所 岩槻駅東口コミュニティセンター 会議室

今回は「ティッシュペーパーのエルモア」でおなじみのカミ商事株式会社 オムツフィットの資格を持つ真鍋氏と福田氏にお越しいただき、紙おむつの基本的知識と上手なおむつの装着方法についてご講義いただいた。

きちんと装着したつもりでも、なぜかシートや下着が尿漏れでびしょより・・・などの経験は介護者の方ならきつとあるはず。では尿もれを防ぐにはどうしたらよいか？

1. 尿とりパッドの中央に尿道口をあて、きちんと装着する。
2. その人の尿量に合った尿とりパッドを使用する。尿量の多い人は両面吸収タイプも効果的である。
3. 必要以上に尿とりパッドを重ねない。紙おむつ＋適切なパッド一枚で良い。何枚も重ねると、違和感の増加や通気性の阻害、おむつとの間に隙間ができるなど弊害が生じる。



4. 身体に合ったサイズの紙おむつを使用する。テープ止めタイプの場合、テープが中央で重なる場合はワンサイズ小さくする。
- とアドバイスをいただいた。
- 特殊なマネキンを使用して、尿に見立てた水を流し、どのような装着方法で尿漏れが起こるのかを実際に参加者に体験してもらったり、パッドに使用され

大宮区ケアマネサロン

「通所介護事業所との情報交換と連携」

報告書等の有効活用について

開催日時 平成22年8月31日(火) 13時15分～14時30分
開催場所 さいたま市民会館おのみや 第2会議室

今回は、いつもお世話になつているデイサービスの相談員の方々にもご参加いただき、お互いの情報交換が円滑に行えるように意見交換を行った。参加者は相談員5名(4事業所)、ケアマネジャー16名(5事業所)であった。

まずは自己紹介を兼ねて、各施設の特徴と、ケアマネジャーが利用者に施設を紹介するポイントを話してもらった。施設は開設して1年ちよつとの所や、18年になる「老舗」、マシーントレーニングで男性に人気の所や、利用者のほとんどが女性の所と、バラエティーに富んだ顔ぶれだった。ケアマネジャーからは「利用者や家族が自己選択できるように、いくつかの施設を見学してもらおう」「施設の特徴と利用者の状態を考え合わせて紹介する」という意見が出された。

次に、施設からの利用者の状況報告とケアマネジャーからの新規利用者情報について話し合った。前者は、どの施設も要支援者については毎月報告し、要介護者については、出していない所、3ヶ月に1度出す所、用紙を送ってくるケアマネ

ジャーのみに出す所に分かれた。後者は、施設側から「服薬情報が不十分で、服薬対応に戸惑った」「緊急時の連絡先が間違っていた」「ADL情報が違っていた」という意見が出された。これに対しケアマネジャーからは「連絡先など基本的なことは、ケアマネジャーがきちんと伝える必要があるが、細かい点は施設側で把握すべきだと思う」「どこまでケアマネジャーが対応し、どこから施設で対応してもらうべきか日々悩んでいる」という意見が出された。その他、デイサービスで

の外出先の決め方についての質問や、難聴の利用者に対する配慮を求める意見がケアマネジャーから出された。

今回初めての試みであり、日頃の思いを積極的に伝える場とまではならなかったが、他のケアマネジャーの仕事ぶりを垣間見ることでもでき、自分の仕事を振り返る機会ともなった。



中央区・桜区ケアマネサロン

「もっと知りたい在宅マッサージ インフォーマルサービスの活用」

開催日時 平成22年9月25日(土) 13時30分～15時30分
開催場所 特別養護老人ホーム ナーシングヴィラ与野1階

第1回中央区・桜区ケアマネサロンは、8名(他地区2名)が参加し行われた。

り軽い感覚だったが、体が温かく軽くなり効果を実感できた。必要な時は介護保険外のサービスを活用することで在宅生活を継続できることを感じた。

在宅マッサージの3事業者(6名)による在宅マッサージの実際、どんな方が受けられるの?どうしたら受けられるの?回数・時間・費用の丁寧な説明があった。

主治医の同意書に書き方の見本例や説明文をつけるなどマッサージの事業者も工夫している。骨折等急性時のマッサージは、逆効果であり、体力低下の著しい方は、負担が大きき考慮が必要との話があった。

ケアマネジャーもインフォーマルサービスとしてプランに位置づけた場合は、在宅マッサージの事業者と連携し、在宅生活を支援できると感じた。

意見交換後は、高齢者と同じようにマッサージを体験した。思ったよ

ている吸収ポリマーが水分を吸収 してしまふ人への対応について 収るとどうなるかを観察した 等、様々な質問が飛び交い、あっさり、とても興味深い内容であった。参加者からは、製品についての質問や、自分でおむつを外 となつた。



南区ケアマネサロン

「宅配弁当について」

開催日時 平成22年9月27日(月) 10時00分～12時00分
開催場所 文蔵公民館 調理室

今回の南区ケアマネサロンでは、株式会社シニアライフクリエイトでメニュー企画を行う管理栄養士 渡辺沙智氏と、同社宅配クック123 さいたま浦和店の森川正氏をお招きし、宅配食のメニューや宅配サービスについてののご案内をいただいた。参加者は15名だった。

メニュー作りにあたっては、ご高齢者がなじみやすい和食を中心にしている。ご高齢者に不足しがちなたんぱく質を多めに、魚メニューについては、骨をしつかり取るなど、食べやすいよう配慮をされている。また、同社では事前にお知らせすると刻み食やおかゆ、禁忌食材への対応

西区・大宮区・北区合同ケアマネサロン

「会議が変われば、介護が変わる」

「担当者会議の質の向上を図るために」

開催日時 平成22年11月15日(月) 13時30分～15時30分
開催場所 さいたま市市民会館 第2会議室

今回行われた、3区合同ケアマネサロンは第1回北区・西区

「やわらか食」の試食では、カツが舌でつぶせるほど柔らかく、試食した参加者も驚いていた。

ご高齢者の間で宅配食自体が続かないことは往々にしてあるが、普通食や療養食についてもよい味付けで、「なぜ続かないのだろう」という声も上がった。摂食機能や病状に応じた様々なメニューを、ご説明いただきながら試食することで、生活の原点になる食事の大切さも考えることができた。



第2回北区・西区合同ケアマネサロン

「訪問看護事業所との交流会」

開催日時 平成22年10月8日(金) 18時15分～19時35分
開催場所 宮原コミュニティセンター

第2回北区・西区合同サロンでは、訪問看護事業所との交流会を行った。4名の訪問看護師と14名のケアマネジャーの参加があった。

3グループに分かれ、ケアマネジャーから質問を出し、それに対し訪問さんに答えていただく形式で始めたが、テーブルごとにすぐに打ち解け、話が盛り上がり、会場に時間延長を申し出るほどであった。

これまで、訪問介護や通所系サービスから比べると、少々敷居の高いイメージのあった訪問看護だが、今回の交流会で実はとても利用しやすいサービスであることに気づかされた。たとえば、指示書は訪問さんから指示書を主治医に依頼していただき、ケアマネジャーと主治医の橋渡しをしていただけたということが確認でき、医療系に弱いケアマネジャーにとってはとても心強いと感じる。また、ターミナル期の方についての訪問の入り方を体験談を交えて具体的に教えていただき大変勉強に

勉強会に取り入れたい課題、1位に選ばれた「サービス担当者会議の上手な進め方、ファシリテーターとしての役割」というテーマについて開催された。ケアマネの参加者は30名を超え、テーマへの関心度が高いことがうかがえた。



代表の佐藤康広氏をお迎えした。佐藤氏は介護福祉士、ケアマネジャーの資格も持ち、現在、様々な介護資格の講師を務め、最近では「介護を小学生のなりたい職業No.1に！」プロジェクトを立ち上げ、小学校や児童館で、介護の喜びなどを紙芝居にして伝える取り組みを行っており、とても楽しく、熱心な講師であった。

まず初めに、会議のポイントについての説明があり、会議の事前準備、環境作り、会議中の発言内容、会議録などを、流れに沿って理解することができた。その中で、会議の開催時は笑顔で「よろしくお願ひします！」と挨拶をすることが、簡単に重要だとの話が印象に残った。

また、会議のルールとして一つだけ守ることは、「否定しない！」ということであった。これは、自分の価値観を相手に話す時は、その人の意見をまずは認めてあげることが大切。相手を決して否定せず、「イイね！」と言ってあげること、信頼関係につながるということである。これに関して、ケアマネジャーからは、「意外とできていないかもしれない・・・」という意見も聞かれ、興味深く聞

いていた。

次に、「ワールドカフェ」という手法をもとに、6人5グループに分かれ実際に会議を行って見た。会議のテーマは「有料ホームでどんな生活をしたいですか？」という共通のテーマで話し合い、7分ごとに、グループの司会者以外は、別のグループへ移動する。そして、移ったグループの中で、前のグループの内容について話し合い、そこから新しい発想をどんどん出していく、という形式であった。テーマが身近な内容であったことから、一人一人がたくさん発言し、様々な発想が飛び交い、大いに盛り上がった。

デモの会議を行ってみて、こんな雰囲気です。施設内でも、一人一人に活気が出て、明るく、生き生きと介護にあたれるだろうと実感した。佐藤氏が提言している、「会議が変われば、介護も変わる」という意味が、ワールドカフェという手法のデモ会議を行うことで、よく理解で

きた。

サービス担当者会議は、利用者、家族の意向の確認、援助の方針、ケアプランの内容確認、役割分担の把握など、なくてはならない重要な会議である。ケアマネジャーの中には、会議が苦手という人もいると思うが、今回の講義のポイントをしっかりとして押さえ、笑顔で会議に臨めば、利用者、家族との信頼関係も深まり、自立に向けたよい支援につながるのではないだろうか。

今後も、ケアマネの意見を反映させたサロンを開催し、有意義な活動にしていきたい。



第2回 見沼区ケアマネサロン

「サービス事業所との連携構築」

〈介護支援専門員と訪問看護との連携を考える〉

開催日時 平成22年11月16日(火) 13時00分

開催場所 片柳コミュニティセンター 1階第1会議室

前回、ショート利用施設との連携を行い意見交流、事例などを挙げ事業所の考え方が再認識された。

今回は、訪問看護、医療との連携について、東大宮、大宮共立病院、みぬま、えがおの各訪問看護ステーションの代表の方4人をお招きし、訪問看護の導入時期について、通院困難者の往診医の探し方、ターミナルの対応(医療保険、介護保険との区分け)、ケアマネジャーとの関わりの中で困ったことや良かったことなどお話しをしていただいた。

往診医の探し方については家族の方に選んでいただきたいが、必要とあれば連携が取れる医師をご紹介する。また、かかりつけが多い方については現状で問題となっている病気の医師に指示書を書いてもらえることが、病状管理していく中でも大事になってくる。

訪問看護の導入時期については疾患が多い方であれば、経過

ターミナルについては、末期と診断されても状態が落ち着いている人でも医療対応なのか、安定期は介護保険で進行具合により、医療に切り替えることはできないのかとの問いに、基本、指示書に末期と記載があれば



ば医療保険での訪問と
していること。

ケアマネジャーとの関
わりについての問いには、
医療保険で入る方は介護
保険のサービスと違うと
のことで、疎遠になり情
報が入ってこなかったりす
る。会議などにも呼ばれな
かったことがあった。介
護保険のサービス経過や
その時の状況などが見え
ないという意見があり、医
療で入っている方でも、ご
本人のサービス利用状況や
報告などをいただきたい。
もつと連絡を気軽に取り
合い情報の共有、連携を持
ち利用者の状態安定、改善
に努めていきたいと話さ
れ、ケアマネジャー側か
らも連絡を行い、相談な
どをしていくことにより
相互関係を今後も築いて
いくことが、在宅生活さ
れている利用者の安心に
もつながるものと感じた。
今後も、在宅サービス事
業所との交流を多く持ち、
ケアマネジャーと事業所
の距離を近くしスムーズ
な連携、情報交換などが
できるようにしていきたい
と考えた。

岩槻区ケアマネサロン

「災害時高齢者生活支援講習」

「災害が起こったときにあなたをサポートできること」

開催日時 平成22年11月19日（金）14時00分～16時00分
開催場所 本丸公民館

近年世界中で大規模な災害が発生し、多くの人々が死傷したり避難所での生活を余儀なくされている。

避難所において、心身ともに影響を受けやすい高齢者を、少しでも早く普段の生活に近づけるよう支援するにはどうしたらよいかをテーマに、日本赤十字社の栗原頼子氏と渡辺とし子氏を講師としてお招きし開催。12名が参加した。

災害によるショックと、慣れない避難所生活で多くのストレスを抱える高齢者は、体調を崩したり、寂しさや不安から悲哀や失望感が強くなる。

対応として、安心してもらえよう
な声かけと、身に起こった出来事につ
いての傾聴など、心のケアが必要であ
る。

講習では2人一組になり、避難所で
横になりがちな人に声をかけ、床から
立ち上がってもらう方法や、肩や背中
に触れることで手のぬくもりを感じて
もらい、ストレスを緩和させる演習を
行った。

他にダンボールとビニール袋での足
浴の行い方、清拭に使用するホットタ
オルの作り方、風呂敷でリュックサッ

クの作り方などを教えていただいた。

講師の栗原氏によると、災害に備え
て枕元に3日分の食料と水、スニー
カーを用意しておく必要がある（自
助）。それがあれば行政の援助（公助）
が受けられるまで持ちこたえることが
できる。

そして、ストレスに満ちた生活の中
では地域の人々による励ましや助け合
い（共助）が大切であるとの事。

参加者達からは、「突然やってくる
災害に対して、心の準備をしておく必
要がある。とても勉強になった。」と
の意見があった。



お知らせ

① さいたま市介護支援専門員協会では、このたび
多くの皆様に協会活動のご理解、ご周知いただくこ
とを目的に、ロゴマークを作成しました。

ロゴマークデザインに込めた思いは、「人」が支
えあい皆で力を合わせ色とりどりの幸せの花を咲か
せよう、とのイメージです。さいたま市各区の十色
を使用し、「ネットワークの和」という意味も込め
ています。字体は元気に奔走するケアマネジャーを
表しています。

またロゴマークの下の方のデザインは、Saitama
City Care manager Societyの頭文字をとって「S
C S」からデザインしたものです。



施設介護支援専門員研修の報告

「接遇研修」

開催日時 平成22年9月11日(土) 13時30分～16時00分
開催場所 ナーシングヴィラ与野デイサービス(中央区)

埼玉精神神経センター医局秘書の尾寄美奈氏による接遇研修

会。19年度より全体研修として実施してきたが、今年は施設ケアマネ研修会で開催した。施設従事者であれば参加可能のオー

ブン形式で実施。22名が参加した。

今回も、講師が参加者一人ひとりに質問をして答える対話形式の研修。「筆記用具は片付けてください」、「途中休憩はありません」との挨拶に、当初は緊張感も感じられる会場だったが、講師のお人柄と巧みなユーモアにほぐされて、次第に活発な返答が聞かれるようになった。

電話や来客応対の基本、メモの取扱い、ビジネス用語など、ビジネスマナーの基本はもちろん、クレーム対応の方法などを改めて学ぶことができた。

アンケートからは「ひととの関わり、言葉遣いやマナーの大切さを再確認できた」、「気がつくことの大切さを学ぶことができた」、「施設マナーはまだまだ。繰り返し何度も講義を聞いて身につけたい」などの嬉しい意見をいただいた。

接遇の大切さ、基礎の大切さを確認するために、このような研修を継続することが必要であると感じた。



平成22年度

第1回 さいたま市「介護の日」フェスタ

「安心は地域の絆から」

開催日時 平成22年11月11日(木) 13時00分～16時30分
開催場所 与野本町コミュニティセンター

11月11日は、「介護の日」多くのの人に、介護を身近なものとしてとらえてもらいたい、それぞれの立場で介護を考え、かかわってもらおうことを目的に厚生労働省が定めたものである。11月11日は意見公募により最も賛意が得られた日で、「いい日、いい日」と覚えやすく、親しみやすい語呂合わせになっている。

このたび、さいたま市の主催で「安心は地域の絆から」をキーワードに【第1回さいたま市「介護の日」フェスタ】が開催された。フェスタには、当協会をはじめ、さいたま市在宅ケアサービス公社、さいたま市介護保険サービス事業者連絡協議会、さいたま市老人福祉施設協議会、さいたま市老人保健施設連絡会の5団体が共催として参加し、一般来場者も含め全体で200名の参加があった。

さいたま市の清水勇人市長のご挨拶で、さいたま市は、高齢者人口の割合が急速に高まることと予測され、地域コミュニ

ティーの希薄化、そして市民生活を取り巻く環境が変化している。こうした状況の中、本市では市民の皆様が「健康」「安心」「生きがい」を持つて暮らし続けることのできる地域社会作りを目指し、様々な事業を推進している。そのためにも介護が必要となった高齢者、介護されているご家族を地域の中で、「市民」「事業者」「行政」が一体となって支えていくことの大切さ、そして多くの市民の理解と

絆を深めることの大切さを述べられた。また、共催5団体の協力を得て開催することができ、関係者へ感謝の意を表した。

講演会は、高齢者運動器疾患研究所代表理事 伊奈病院整形外科部長 石橋英明氏より「足腰をきたえて介護予防～骨そしよう症を防ぐ知恵と秘訣～」について行われた。

一般者他多数の参加があり、ロコモティブシンドローム(運動器症候群)とその予防の話に皆真剣に耳を傾けていた。ロコモ



シヨントレーニングでは、片足立ち、スクワット、ウォーキング、自転車、卓球などの運動を勧められており、参加者全員の実演も行われた。歌を歌いながらのスクワットでは、思っていたよりも筋肉を使うとの声も聞かれた。予防のためにも日頃のトレーニングと心がけが大切である。

展示会場では、足こぎ車いす、ロボットスーツHAL、コンパクトレッグプレス、ホットプラスが展示され、参加者が実際に体感できてよかったとの声が多数聞かれ、他の介護用品としてベッド、入浴バスタブなども見たいとの意見があった。

また、会場にはポスターセッションもあり、ケアマネジャー・社会福祉士による相談会では、井戸端会議のようなリラックスした雰囲気の中で行われた。

「介護の日」を中心に、行政、関係機関、団体などが連携し、介護についての理解と認識を深めること、市民への啓発活動、介護サービス利用者・介護を行っている家族への支援、介護従事者への支援、そして私たち一人ひとりが、どのように介護にかかわっていけばよいか考える良い機会となった。

ちょっと coffee break

「富士山」

会員A

朝、起きて間もなく窓の外を見ると、遠くのほうにすっかり雪化粧した「富士山」が見える。(きれいだな・・・) 富士山を見ると、寝ぼけた顔が素直にほころぶ。日本人に生まれて、上京後埼玉に移住して、良かったな・・・とつくづく思う。

皆さんも、仕事や家事、育児、また介護等で毎日が追われている中で、ふと周りの景色を眺めたりと、何かしら一息をつくことがありますよね。私の中でも、富士山は霊峰と云われるほど、パワースポットなんだろうと思う。富士山からこんなに離れていても、自然と富士山がある方向を探し目を向けてしまう。

皆さんの住んでいるところで、きれいに良く見えるところはどこですか？私のお勧めは、早朝の朝日が差し込んでくる頃で、見沼たんぼから新都心のビル群が見える辺りかな・・・。または勤務している施設の屋上・・・、ちゃんと休憩時間ですが・・・(笑)。そうそう、16号線で線路を越える橋の上からもちらっ

と見えるかな。

故郷は日本のチベットと云われた山形で、蔵王が望める山形市内に子供のころ住んでいた。中学で転校した先の蔵王一中に朝登校する時は、40分は歩くののだが、自然と蔵王を眺めていたころの自分と今の自分を重ね合わせる。

元旦は、初日の出とともに、反対方向の富士山も拝めると、清々しく新年を迎えられますよね。今年もよろしく願い申し上げます。

<つぶやき>

(大晦日に当直で、元旦の早朝に玄関鍵開けなどで巡回する際、屋上で初日の出を眺めるのが、唯一の至福の時間である・・・)(まさか、あのNさんの指名により、次に私が書くことになるとは・・・正直に驚きを隠せなかった。今後のこのコーナーはなぜか指名制になっているよう。次はだれにしようかな?)

さいたま市からのお知らせ 「e-ランニング」について

厚生労働省による平成22年度の要介護認定適正化事業では、全国テスト及び教材・問題集による学習を実施することにより、認定調査員の調査能力向上等を目的としたe-ランニングシステムが開発されました。

さいたま市でもより公平・公正な要介護認定を実施する観点から、認定調査員の皆様には是非参加していただきたいと考えていますので、積極的にご活用いただきますようよろしくお願い申し上げます。

事務局より

会員の住所・事業所等登録事項に変更があった場合や入会・退会希望の場合は事務局までご連絡ください。

さいたま市介護支援専門員協会 事務局 野崎・西間木

(財)さいたま市在宅ケアサービス公社内

電話番号 048-645-7470

FAX 048-645-7500

リニューアルしたので見てくださ~い!!

ホームページ

<http://www.saitamashi-keamane.jp>